



聖霊降臨の主日 (ヨハネ 15:26-27;16:12-15)

聖霊の炎で造り替えられる

めったに味わえないイセエビとアワビを先週いただきまして、木曜日の福見のミサで、保育園児と小学生を前に、イセエビをいただいたことをわたしなりに披露しました。

浜串の司祭館のチャイムが鳴ったので誰かなあと思って二階から下りて行ったら、イセエビが玄関に横たわり、苦しそうにしていた。よく見ると足が何本かちぎれている。

これはきっと車にひかれてしまったに違いない。そのままにしていたら死んでしまうので、わたしがイセエビの耳元で「食べてもいいですか」と聞いたら、「うん」と言った。そういう話を披露しました。

保育園児はポカンと口を開けて聞いていましたが、小学生は全員わたしに反論があるといった顔でした。その中で学年がいちばん下の子供が、「イセエビがチャイムを押すはずがない。イセエビが『うん』と言うはずがない」と、最後までわたしの主張に異を唱えていたそうです。

木曜日は、全員そろってわたしのもとで要理のお勉強ですが、上級生がわたしを教え諭すかのように「神父さま、イセエビはチャイムを押したりしませんよ。押せるはずがないでしょ」と釘を刺されました。「わたしが下りて行ったときにイセエビがいたのだから、イセエビが押したに違いない」「イセエビはそんなことしません」子供たちはわたしの嘘を見破れるほど立派になったのだなあと感心しました。

一方で子供だましのような嘘を言い、一方で福音の学びを語る主任司祭の舌は、どうなっているのでしょうか。ですが子供にも分かるような嘘を言うのはわたしに限ったことではないでしょう。どんな人にも、聖霊降臨の恵みに触れて、変わっていく必要があるわけです。その聖霊降臨は、わたしたちをどのように変えてくださるのでしょうか。

本日聖霊降臨の主日の第一朗読では「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」

(使 2・1-4) とあります。

「炎」は、熱を伴うものです。聖霊が使徒たちに降ると、彼らに熱意が注ぎ込まれたのでした。また、聖霊は舌の形で現れたということですから、この「炎のような舌」は弟子たちの舌を「熱意をもってイエスの復活を宣べ伝える舌」に造り替えたということでしょう。

ところで復活後の弟子たちについて、弟子たちの人間的な部分、イエスの復活に遭遇してもなお簡単には変わらない部分を書き記されています。ヨハネ福音書によると、「シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが、『わたしは漁

に行く』と言うと、彼らは、『わたしたちも一緒に行こう』と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった」(21・2-3)とありまして、復活したイエスに出会った後も、自分たちの食べ物への心配がまず頭にあったのです。

この後イエスが岸边に立ち、何も魚が取れなかった弟子たちに「子たちよ、何か食べる物があるか」(21・5)と言いました。ここでも復活したイエスは弟子たちの心配を取り去ってくださるのですが、「イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目」(21・14)だったのです。弟子たちでさえも、聖霊による照らしがなければなかなか変わらないことが暗示されていると思います。

聖霊降臨を身近に感じるために、例えを見つけました。炎を入れて造り替えられるものと言ったら何でしょうか。わたしが思い付いたのは、刃物・包丁です。たとえば出刃包丁は、火で精錬されて強く切れ味の鋭い包丁に生まれ変わります。わたしは左利きで、自分に合った包丁を持っていなかったのですが、チャンスを与えられて左利きの包丁を作ってもらい、愛用しています。すばらしいこの包丁は、火で精錬されて、単なる鉄の塊から、切れ味鋭い刃物に生まれ変わったのです。

聖霊降臨は、わたしたちに同じ体験をさせてくれるのだと思います。炎のような舌が一人一人の上にとどまります。特に、堅信の秘跡を通して、聖霊がとどまり、わたしたちの舌を火で精錬して、復活したキリストを宣べ伝える者、キリストの兵士としてくださるのです。火で精錬された包丁が、手入れを怠らないならばいつまでも鋭い切れ味を保つように、聖霊という炎で精錬されたわたしたちの舌は、わたしたちが悪意で間違った使い方をしない限り、いつまでもキリストを伝える舌であり続けるのです。

福音朗読の中で聖霊は、「真理の霊」「真理をことごとく悟らせる霊」として示されています。洗礼を受けたわたしたちには、すでに真理があふれるほどに注がれているのですが、わたしたちは神がお与えになる真理に疎く、たとえその真理にたどり着いても語る言葉を持ち合わせていません。そこでイエスは真理をことごとく悟らせる聖霊を遣わし、わたしたちを造り替えてくださいます。

問題は、わたしたちが心を開くかどうかです。聖霊という火によって精錬されることを喜んで受け入れましょう。わたしたちの舌が、キリストを宣べ伝える舌となることを喜びましょう。福音朗読の前に歌った「聖霊の続唱」を、心の中で歌い続け、わたしたちの舌が、いつもみことばを語れる状態に保たれるよう、今日のミサの中で願ひましょう。